

フランス語研修を終えて

021400008 教育学部 K.A

1. ストラスブールで学んだ3つのこと

私がこのストラスブールでの2週間で学んだことは、まず、自分から行動すればするほど、その分が経験値として自分に返ってくるということである。逆にいえば、自分から動かなければ獲得できる経験値もその分少なくなってしまうということだ。私は研修に行く前は、同じ名古屋大学の学生たちと同じプログラムに参加するとはいえ、日本語の通じない環境の中で生活するのだから、必然的にフランス語を使わなければならない機会がたくさんあるだろうと思っていた。しかし、実際に2週間フランスで生活してみて気づいたのだが、大学の授業以外の日常生活の中では、自分からフランス語を使ってコミュニケーションを取ろうという意識がない限り、あえてフランス語を話さなくても意外と生活できてしまう。たとえば、お店で物を買うときには欲しい商品をレジに持っていき、または指を指して店員さんにこれがほしいと伝えることで事足りるし、ストラスブールはカテドラルのあたりだと観光客が多いこともあってか、レストランのメニューに英語版があるところもあり、店員さんも英語で対応してくれるので英語が少し話せれば問題ない。さらに、最近はWi-Fiさえつながっていればスマホで何でも調べることができるので、公共交通機関の使い方や目的地までのルートも、わからなくても人に聞かずに済ませてしまうことだってできる。せっかくフランス語を勉強するためには絶好の機会を得たのに、その機会を生かしきれずに終わるのはもったいないと思い、自分ができる範囲でなるべくフランス語で話してみようと思いついてみたが、自分に身につけている語彙や文法の少なさから、思うように言葉が出てこないことがほとんどだった。ただ、そんな中でも頑張って発したフランス語が相手に通じたときには何ともいえない達成感があったし、ネイティブの人にこれでもちゃんと通じるんだ、という自信にもなった。また、研修のプログラムの中で交流した、ストラスブール大学の日本語科の学生たちと積極的に仲良くなって連絡先を交換している学生がたくさんいたが、私はそこで自分から行動することが出来なかったため、タイミングを逃してしまった。研修後も現地の学生と連絡を取り合うことで交流の輪を広げるチャンスだったのにも関わらず、そこで一歩動けなかった自分が悔やまれた。とにかく、研修中の2週間、自分から外へと積極的に行動していた学生ほど、現地の学生の友達を増やしたり、いろんなレストランで食事を楽しんだり、たくさん単語を覚えたりと、より多くのものをフランスで得ていたように思う。改めて、積極的に行動することの重要性を学び、同時に自分には行動力が足りないということを実感した研修であった。



私が学んだことの 2 つ目は、やはり英語はできると役に立つということである。研修自体は英語ではなく、フランス語を学ぶプログラムであるので、研修の本来の趣旨とは少しずれているとは思いますが、日本を出国してから帰国するまでのあらゆる場面で英語力の必要性を感じたので、学んだことのひとつとして挙げようと思う。まず、英語が必要だと感じたのは行き帰り、特に帰りの空港や飛行機の中である。行きは中部国際空港からであるため荷物を預けるところから飛行機に乗るまで特に問題はないが、帰りはドイツのフランクフルト空港で行きと同じような手続きをしなければならないので、もちろんドイツ語など全くできない私は英語で帰りの航空券の発券の仕方を尋ねたり、説明を聞いたりしなければならなかった。慣れない海外の空港という環境のせいもあってか、かなり緊張して思った以上に頭が回らなかった。また、先の段落にも出てきた日本語科の学生との交流の際にも、英語を使う機会があった。基本的には、現地の日本語科の学生は日本語を、名古屋大学から研修に参加している学生はフランス語を勉強しているので、日本語かフランス語でコミュニケーションをするようにはしていたが、どうしても単語や文章が相手に通じないときや、フランス語で、または日本語で何というのかわからないときには、英語で相手に聞いたり、説明したりした。お互いの言語がわからないときの補助として英語があることはとても便利だったし、世界の共通言語はこういう場面で役に立つのだと新たに知ることができてとても新鮮な経験だった。研修前は、フランスに研修に行くのだから英語はそれほど使わないだろう、使うとしても空港や駅などの交通機関だろうと思っていたが、いざ現地に行ってみると意外にも英語が使えると便利な場面は多く、むしろフランス語ができなくても英語が出来ればある程度のコミュニケーションは取れると思えるほどだった。英

語が主言語の国であろうとなかろうと、海外に行く際には、英語力があることがどれだけ有利かをこの研修で学んだ。



私が学んだことの3つ目は、言語を習得する上では、なによりもまず語彙力が必要だということである。私は1年生のフランス語の授業、特に文法の授業において、語彙力をつけることはまったく考えず、ただひたすら教科書で説明されている文法事項を覚えることに一生懸命になっていた。今回の研修で、フランス語で授業を受けたり、生活をしたりする中で身に染みて感じたのは、たとえ文法を理解していたとしても、それを構成する肝心の単語がわからなければ元も子もないということだった。先生が話していることを聞くにしても、自分がフランス語で会話をするにしても、語彙がわからなければ何も聞き取れないし話せない。自分が知らない単語を聞き取れるわけがないし、話せるわけがない。とにかく語彙をつけなければなにもはじまらない。それがフランスでの2週間で最も痛感したことだった。そのため、2年生になるにあたってまずは、語彙を増やすことに重点を置いて勉強することが現段階で自分のやるべきことだとわかった。

ストラスブールでの2週間で学んだことを通して、私は今の自分がやるべきことを改めて知ることができた。この経験を生かして、さらに自分を成長させる大学生活を送りたいと思う。